

南の国の「ナオミ」税理士

成功へのキセキ

第61回 親に虐待される子どもたち…

5歳の女の子が、義父から虐待を受けて亡くなった目黒の事件。保護責任者遺棄致死罪に問われた母親の公判が開かれました。

なぜ、生命を奪うまでの虐待が、自分の子どもに対して行われたのか…。目の前で日に日に弱っていく子どもと一緒に暮らしながら、我が子をかばうこともせず、第三者に助けを求めることもしなかったのか…。母親の供述を、何度も読み返してみました。

子どもを死なせたことに対して、起訴内容は大筋で認めたものの、自分も夫から暴力を受けていて、さからうことができなかつたなどと一部、否認をしています。

公判中、立っていることもできないくらい泣きじゃくり、「自分を一番恨み、一番許さないと思っているのは私」と述べていますが、夫から女の子への暴行を一度でも体を張って止めたことがあるかという裁判員の質問には、「体を張ったことはない」と答えています。

女の子は、一日に汁物1～2杯しか食事を与えられず、亡くなったときの体重は、12.2キロ。平均的な5歳児の3分の2しかありませんでした。母親は夫に隠れて、女の子の好きなお菓子などを食べさせていたということなので、その状況が危険だという認識は持っていたと思われる。

亡くなる数日前にも女の子は義父に殴られ、その後嘔吐を繰り返し衰弱していきませんが、最後まで病院に連れていくことはしませんでした。

うーん。人間、実際にその状況に置かれてみないと真実は分からないので、ああすれば良かったとか、なぜ〇〇しなかったのかなど、軽々しいことは言えませんが…。正直、母親の心情はまったく理解できません。

立つこともできないくらい衰弱してしまった子どもを見て、せめて救急車を呼ぶとか、最後のアラームは鳴らなかったのでしょか。病院に行かなかつた理由については、あざを見られて、虐待が発覚することを恐れたから、と供述しています。

なんじゃ、それ!!

しかも…。全身あざだらけだったにも関わらず、死因が低栄養状態での肺炎による敗血症のため、暴行と死因との因果関係は認められないのだそうです。わーん、ここでまたもや、法律の壁が…。素人目には、義父と母親が積極的に女の子の命を奪ったとしか思えないのに、

容疑は「単なる」保護責任者遺棄致死です。亡くなった後ですら、法律は女の子を守ってはくれないというやるせなさ。

じつは、この女の子は二度ほど、児童相談所に一時預りになっています。女の子の泣き声があまりにひどいので、近所の人通報したからですが、義父も母親も暴行を否定したために、結局は自宅に戻されています。その後、一家は香川県から東京へ転居し、案件の深刻度は品川児相側に引き継がれませんでした。他の悲惨な虐待事件と同じように、母親も親戚も児童相談所も行政も、誰一人、5歳の小さな女の子を助けてはくれなかつたのです。

とりわけこの事件では、女の子が両親にあてて書いた手紙の内容が衝撃的で、大人の心を揺さぶりました。「パパとママにいわれなくてもしっかりとじぶんからきょうりよりもっとあしたはできるようにするからもうおねがいゆるしてください」

この原稿を書きながら、泣いてしまいそうです。この女の子とは比べようもありませんが、私もよく、母親に「ごめんなさい」という手紙を書いたからです。

いま思い返しても、あれは虐待といえるレベルだったのではないかと思います。お嬢様育ちだった母は、子どもの頃ピアニストになるのが夢だったそうです。でも女性が職業をもてる時代ではなく、祖父の勧めるまま父と見合い結婚をし、専業主婦になりました。そのため生まれた娘つまり私を一流のピアニストにすることが彼女の人生の次の目標となつたのです。

小さいころから本物の音を覚えることが重要だとかで、3歳児には不釣り合いなグランドピアノが、ある日我が家にデーンと届きました。

そして母が見つつけてきた著名な先生のクラスに週1回、ソルフェージュの訓練に週1回、通う毎日が始まりました。さらに、著名な先生のお弟子さんが、毎日我が家にやってきて、自宅でレッスンを受けます。そして夕食が終わったら、寝るまで課題の練習です。

週1回の著名な先生からは、まず課題曲を与えられるので、翌週までに暗譜していかなければなりません。覚えるまでは弾き方は下手でもOK。暗譜ができたなら、その次の週から改善すべき課題が与えられます。先生から指摘された課題ができないと、母から容赦なくぶたれ

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社の総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけのできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

ました。

こうして3歳から始めたピアノのお稽古は、幼稚園や学校から帰るとすぐに、夕食をはさんで6時間続くようになりました。友だちの家に遊びに行くことも、友だちを呼ぶこともできません。

あれは小学校3年か4年のときのことで。私の誕生日を祝ってあげるとクラスのお友だちが5～6名、遊びに来てくれたことがありましたが、母は「ナオミはピアノのお稽古があるから遊べないのよ」と言って、追い返してしまいました。泣きながら抗議すると、平手打ちでぶたれました。1時間でもお稽古をさぼったら、取り戻すのに3日かかるというのが、その理由です。

それでも泣き止まないと、外にあった真つ暗な納屋に閉じ込められ、泣きつかれるまで出してもらえませんでした。当時の私は納屋に入れられるのが本当に怖くて、毎日のように、ごめんなさいと泣きながらピアノを弾いていた記憶しかありません。

母の口癖は、「今は分からないかもしれないけど、貴女が大きくなったら、親の有難みが分かる時がくるから」でした。

もし、もし私に音楽の才能があれば、ピアノのお稽古が楽しくて、母の願いどおりプロのピアニストになっていたのかもしれない。だけど音楽の才能がないのは、少し大きくなれば自分で分かります。ピアノのお稽古は、私にとって苦行でしかありませんでした。

あの頃、毎日のように泣き叫んでいた私の声を、近所の人はどう思っていたのでしょうか。当時は今は時代が違います、今なら間違いなく児相に通報されていたのではないかと思います。

それでも、高校受験を機に私は、革命ともいえる大反

抗をしてピアノをやめることができました。そしてその後、母との関係を、うまく築くことはできませんでした。

こうして高校時代の目標は、ちゃんと勉強をして、東京の大学に行くことになりました。

「大学に行けば、この家を出ることができる。」

その一心だけで、受験勉強をしました。振り返ってみれば、母のおかげで勉強は好きになった(ピアノに比べたら100倍、楽しかった)し、希望の大学にも、そして後に受けることとなった税理士試験(当時は税理士になるなんて夢にも思いませんでしたが)にも、合格することができたといえます。聴音や暗譜の訓練は、いま思えば記憶力の向上にとっても役立ったからです。そういう意味では税理士になれたのは母のおかげとも言える訳で、母に感謝しなければならぬのかもしれない。

そんな私ですが、ひよんな事から児童養護施設の子どもたちと関わり、彼らが施設を卒業後も、ときどき食事をしたり、就職や進路の相談に乗ったりという活動を続けています。

私が子どもの頃に体験したことは、目黒の女の子や、施設に引き取られてきた子どもたちに比べたら、些細な出来事ですが、それでも「やられる」側の気持ちは理解することができます。子どもにとって、親という存在がどれほど絶対的なものか、親から否定された子どもがどれほどの絶望を味わうかを私は体験しているからです。

親から支配された子どもは、考えることをやめてしまうか、破壊的に反抗するかどちらかを選ばないと生きていけません。彼らが人生を諦めてしまわないように、こんな私でも税理士になって自立して生きていけるんだよというメッセージを伝えることが、私に与えられた使命なのかなーと、感じる今日この頃です。

令和元年
6月20日
発売!!

ひとりでできる 必要なことがパツとわかる
人事・経理・労務の仕事が全部できる本

原 尚美 著、菊地 加奈子 著(ソーテック社) 1,580円+税

大好評にて20刷の『最新 小さな会社の 総務・経理の仕事がわかる本』の実践版です。「分かる」だけでなく、「できる」に徹底的にこだわりました。消費税の軽減税率や働き方改革にも対応しています。多くの中小企業の現場で役立つ情報を盛り込み、人事・経理・労務の初心者から3年目の中堅まで存分に使える内容になっています!

